

## 2014 年度事業報告

### I 総括

JIA は、公益社団法人への移行後 2 年目を迎え、「地域に根ざした公益活動」をさらに充実するための施策に力を入れました。

そのための組織・制度整備として、公益活動の主体を支部・地域会へシフトすべく、昨年度に引き続き、委員会再編に加え、全国の支部、地域会の公益活動の情報共有や支援がスムーズに行えるよう、活動分野ごとに全国会議の設置を進めました。また、支部、地域会等が企画提案する公益活動に助成を行うために事業募集制度を導入しました。

公益活動の内容としては、被災地に対する緊急支援活動や復興支援活動、環境・エネルギー問題への対応、消費者に対する建築相談等を行うとともに、我が国の建築・まちづくりの質の向上や文化財としての建築物の保存のための活動のほか、建築大賞をはじめとする各種表彰事業、人材育成事業等を引き続き実施しました。そして、社会に開かれた JIA をめざして、一般市民に対する JIA の広報活動の強化のほか、市民および会員が参加・交流する建築物やまちなみの見学会、シンポジウム・講習会等を数多く実施しました。

一方で、正会員、準会員、協力会員の三者で構成する新しい会員制度の整備に加えて、若い人材をはじめ新会員の入会促進に努めました。また、正会員に対する新たな顕彰制度として、フェロー会員制度をスタートさせました。建築家資格制度については、建築家の質を社会に保証するため、JIA 正会員を全員登録建築家へと導くための実現方策を検討しました。

法制度関連分野では、日本建築士事務所協会連合会、日本建築士会連合会と綿密な議論を重ねてきた「改正建築士法」が 2014 年 6 月に国会で承認されました(2015 年 6 月施行予定)。また、「建築・まちづくり基本法(仮称)」の制定に向けて、JIA 内で時代の変化に合わせた検討を進めました。

国際活動分野では、支部による海外交流の促進と同時に、建築関連団体と連携して海外との若手人材の交換プログラムを実現しました。

業務関連に関しては、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の改正にともなう発注方式多様化や東京都のオリンピック・パラリンピック施設へのデザインビルド導入問題等、建築家にとって非常に重大な問題が顕在化していますが、これに対して関係団体とも連携した行政との意見交換等をはじめ慎重に取り組みました。

なお、会員の高齢化と会員数の漸減傾向が進むという厳しい組織運営環境に加えて、2020 年以降の建築市場の先行き懸念、グローバル化や建築生産方式の多様化、BIM やビッグデータ、さらに IoT 等の情報技術の進展等により、今後、設計業務環境の大きな変容も想定されます。建築家の職能や JIA の組織のあり方についての基本的な考え方を再検討することが必要と考え、会長諮問を受け、2014 年度「JIA 基本政策諮問会議」を設置し、課題の抽出・整

理等を行い、次年度に引き継ぐことにしています。

2014年度の分野別の主な事業活動は以下の通りです(各委員会・全国会議等の事業活動報告および支部長報告については別途記載しております)。

## **[2014年度分野別の主な事業活動]**

### **1. 建築環境整備事業**

#### **1) 環境保全活動**

環境・エネルギー問題の深刻化に対して、建築物や都市の環境問題やエネルギーの削減方をテーマに、シンポジウムやセミナーの開催、市民への普及活動、環境関連図書の出版等を実施しました。

#### **2) まちづくり活動**

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮した、優れた街づくりをめざして、支部、地域会を中心に事業の取組みを行い、市民活動や行政への支援のほか、文化財としての建築物の保存のための活動、日本版「CABE」に関する調査研究や他団体との連携によるまちづくりに関する調査研究等を行いました。

#### **3) 災害対策活動**

長野県神城断層地震の震災被災地における支援活動として、長野地域会では小川村、白馬村の被災区分判定調査を行いました(一部建築士会と協働)。昨年に引き続き、東日本大震災復興支援のため、「みやぎボイス;震災復興シンポジウム 2014」や、JIA 建築家大会・中国でのシンポジウム「中国地方の自然災害の特性(その歴史性と予測)」等を開催しました。また、「国連防災会議パブリックフォーラム」に建築関連五団体とともに参加しました。

奈良県香芝市・広陵町と「災害時の被災建物に関する応援活動等に関わる協定書」、和歌山県との「災害時における住家の被害認定に関する包括協定」、和歌山県印南町・美浜町との「防災協定」の締結や、和歌山地域会では、沿岸部全域地域の「逃げ地図 BASE」を作成し関係市町村への活用・提供活動を行いました。

#### **4) 建築相談活動**

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等トラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会に設置している建築相談室が住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

### **2. 建築文化育成・交流事業**

#### **1) 表彰活動**

「JIA日本建築大賞」「JIA優秀建築賞」「JIA新人賞」「JIA 25年賞」「JIA環境建築賞」を主催し、受賞作品の日本建築家協会優秀建築選(JIA 建築年鑑)への収録・出版を行いました。

また、「学生卒業設計コンクール」「建築家のあかりコンペ」等の特色ある表彰事業に加え、支部、地域会等による地域の特色を活かした表彰事業を実施しました。

## 2) 交流活動

広く一般市民に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、支部、地域会が主体となって、建築物やまちなみの見学会、建築文化に関するシンポジウム、講習会、建築作品の展示会、建築文化関連図書の出版等を実施しました。

## 3) 国際協力活動

「UIA2014 ダーバン大会」への参加をはじめとする世界建築家連合(UIA)との交流のほか、アジア建築評議会(ARCASIA)、各国関係団体との交流に加え、支部、地域会による海外交流の活発化促進を進めました。また、「国際建築活動支援フォーラム(JSB)」と共同して海外との若手人材の交換プログラム等を実現しました。

## 4) 教育・育成活動

建築をめざす大学生・大学院生対象の「オープンスクール」、大学院インターンシップへの支援、学生向けの短期実習を行う「オープンデスク」といった教育・育成支援制度の運営、子供を対象とした建築・まちづくり教育のための「子ども空間ワークショップ」や各種講習会等を実施しました。

# 3. 建築制度整備事業

## 1) 継続職能研修(CPD)制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定(2014年度:認定したプログラム総数 880 件)、CPD 取得状況の管理、他団体との連携業務をはじめ、CPD 制度の運営を実施しました。

## 2) 建築家資格制度運営

建築家のモデル資格として推進している建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度の普及のための活動等を実施しました。また、JIA 正会員全員を登録建築家へと導くための建築家資格制度のあり方等を、各支部を巡回し、意見交換並びに実施方策の検討を行いました。

## 3) 建築関連の法・制度の調査研究・提言

2014年6月の国会で成立した「改正建築士法」に関して、2015年6月25日施行に向け、官民の発注団体に対して、日本建築士事務所協会連合会、日本建築士会連合会及び、各県単位の単位会や地域会と連携し、周知活動を行いました。

「建築基準法改正」に関する国土交通省への協力といった法・制度の整備への取り組みをはじめ、国土交通省大臣官房官庁営繕部等に対する設計業務発注に関する意見表明、各種約款・契約書の改定に関する検討や建築家賠償責任保険に関する調査研究等を実施しました。

## II 2014 年度通常総会

2014 年度通常総会を6月27日午後2時30分より4時10分まで、東京 建築家会館1階大ホール(東京)にて開催しました。正会員数4,158名の内、書面表決者1,585名、委任状提出者693名を含む出席者総数2,374名により総会が成立し、議長に小田義彦会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

### [2014 年度総会議案]

第1号議案 2013年度貸借対照表及び損益計算書、財産目録の承認の件

第2号議案 理事及び監事の選任の件

第3号議案 会費規程改正の件

第4号議案 名誉会員選任の件

## III 2014 年度理事会

2014 年度理事会を、臨時理事会1回を加えて合計9回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。なお、2014年度は理事会のほか、意見交換の場として理事懇談会を5回開催しました。

### [2014 年度理事会議事]

#### 1) 第218回理事会(5月15日開催)

- ①入退会について
- ②会費規程改正について
- ③フェロー会員選考基準について
- ④準会員(専門委員・シニア会員)の本部経費について

#### 2) 第219回理事会(6月4日開催)

- ①2014年度通常総会議案について
- ②優秀建築選、日本建築大賞、日本建築家協会賞の位置づけの見直しについて
- ③「(仮称)建築基本法特別委員会」設置について
- ④「JIA環境会議」設置及び議長・委員承認について

#### 3) 第220回理事会(6月27日開催)

- ①入退会者及び資格喪失承認について
- ②委員会委員承認について
- ③総会白紙委任状等の取扱いについて
- ④(旧四会)連合協定リフォーム工事請負契約約款について

#### 4) 臨時理事会(6月27日開催)

- ①会長、副会長及び支部長選任について

#### 5) 第221回理事会(8月21日開催)

- ①入退会について

- ②「フェローシップ委員会」・「建築家資格制度委員会」・「JIA環境会議」委員等の異動承認について
- ③「JIA建築相談会議」設置及び議長承認について
- ④寄付金等取扱規程について
- ⑤小規模建築物用の四会連合協定建築設計・監理業務委託契約書類について
- ⑥2014年度JIA事業活動助成要領(案)について

#### 6)第 222 回理事会(10月23日開催)

- ①入退会者について
- ②フェローシップ委員会委員承認について
- ③「JIA保存再生会議」設置及び議長・副議長承認について
- ④役員候補者選挙規程改正について
- ⑤会長専決による後援名義承認の取り扱いについての改正について

#### 7)第 223 回理事会(12月17日開催)

- ①入退会者について
- ②フェロー会員推挙承認について
- ③「選挙管理委員会委員」・「総務委員会委員」・「広報委員会委員」・「建築家認定評議会評議員」・「建築家資格制度委員会委員」承認について
- ④(仮称)JIAまちづくり会議及び災害対策活動に関する全国会議設置について
- ⑤役員候補者選挙規程改正について
- ⑥JIA・KIT・NPO法人建築文化継承機構三者覚書承認について
- ⑦「小規模建築物・設計施工一括用請負工事約款」改正版承認について
- ⑧「小規模建築設計・監理業務委託契約約款」承認及び「JIA建築設計・監理業務委託契約書」の取り扱いについて
- ⑨「JIA事業活動助成」採択について

#### 8)第 224 回理事会(2月18日開催)

- ①入退会者について
- ②教育・表彰委員会及び建築家資格制度委員会の委員承認について
- ③JIAまちづくり会議委員承認について
- ④名誉会員の選考に関する規定改正について
- ⑤「JIA事業活動助成」採択について

#### 9)第 225 回理事会(3月18日開催)

- ①入退会者について
- ②フェロー会員推挙承認について
- ③委員会規程改正について
- ④公益事業委員会委員承認について
- ⑤「JIA保存再生会議」・「建築相談会議」委員承認について

⑥2015 年度事業計画及び予算について

⑦就業規則改定、定年後嘱託者再雇用規程及びパートタイマー就業規程制定について

## IV 建築家認定評議会等

### 1. 本部建築家認定評議会

2014 年度本部建築家認定評議会を 2015 年 3 月 31 日に開催しました。議事は以下の通りです。

#### [2014 年度本部建築家認定評議会の議事]

1) 建築家資格制度について

2) 認定、更新、再登録について

・新規認定審査 申請者 9 名 合格 9 名

・登録更新審査 申請者 414 名 更新 393 名 保留 21 名

・再登録審査 申請者 0 名 再登録 0 名

3) 支部建築家認定評議会評議員の選考について

### 2. 建築家資格制度委員会

上記本部建築家認定評議会を補佐して建築家資格制度の運営をするために設置された建築家資格制度委員会は、2014 年度の登録建築家の認定・更新・再登録について、各支部建築家認定評議会から提出された報告書の取りまとめ等、本部建築家認定評議会の審査に向けた準備を行いました。

## V JIA 基本政策諮問会議

JIA 基本政策諮問会議は、会長の諮問を受け、人口減少や高齢化など社会の成熟化に伴う建築をとりまく社会的背景の急激な変化のもとで、建築家の職能と JIA のあり方に関わる課題の抽出と整理を行い、答申を作成しました。

答申の内容は、会員規模に関する考え方や他の建築関連団体との違いといった JIA の基本的な性格の認識から始まり、建築生産システムの多様化と建築家の業務、まちづくりにおける建築家の役割といった建築家の職能のあり方を踏まえて、建築家と JIA の存在意義について、下記の各委員から意見を抽出・整理したものです。

[JIA 基本政策諮問会議メンバー(敬称略)]

(議長) 楨文彦 (議長代理) 深尾精一

(委員) 伊東豊雄 岸和郎 工藤和美 栗生明 内藤廣 水野一郎 六鹿正治

(ワーキンググループ委員) 藤村龍至

(オブザーバー) 森暢郎

## VI 本部役員候補者選挙

1月15日発行の「JIA MAGAZINE 311号」で2015年度本部役員候補者選挙告示を行い、役員候補者が確定し、3月15日に第2回告示を行いました。

[2015年度役員候補者(2015年度総会にて役員就任を審議する予定)]

(氏名)		(所属支部)
<b>【理事】</b>		
連 健夫	(再任)	関東甲信越支部
慶野 正司		関東甲信越支部
藤沢 進		関東甲信越支部
左 知子		関東甲信越支部
鈴木 利明		東海支部
近江 美郎	(再任)	北陸支部
江副 敏史	(再任)	近畿支部
所 千夏		近畿支部
熊谷平一郎		九州支部
當間 卓		沖縄支部
<b>【監事】</b>		
野生司義光	(再任)	関東甲信越支部

## Ⅶ 委員会活動等報告

昨年に引き続き、地域密着の公益活動の充実を図るために、支部・地域会に活動主体を移すこととし、本部をスリム化するための委員会の再編を進めました。なお同時に、地域での公益活動相互の連携・支援を強めるために、活動分野別に全国会議の設置を進めました。

### 1. 委員会活動

#### 1) 職能・資格制度委員会

「正会員は全員登録建築家に！」の実現に向け、全国各支部の会員集会でその意義、必要性について説明し意見交換を行いました。多くの会員からの意見を踏まえ、前述のIV建築家認定評議会を補佐する建築家資格制度委員会と合同で問題点の整理、リスク分析を行い、実施方策の詳細検討を継続実施中です。また、「JIA MAGAZINE」等により広く会員への広報を実施すると共に、HP に「ご意見箱」を設け、引き続き意見聴取を行っています。会員規程、建築家資格制度規則・細則の改定が必要となることから、現在、改定案の策定作業を行いました。

#### <ワーキンググループ活動>

##### ・CPD 評議会

2014年度の本評議会の活動は、年度880件に及ぶプログラム登録申請審査を主に行いました。近年、プロポーザルによる設計者選定にCPD実績を取り入れる地方自治体等が増加しているため、会員のCPDに関する関心も高くなっています。

#### 2) 公益事業委員会

公益事業委員会は、JIA会員とJIA各組織の行う活動が公益性を担保できるよう、会員や事業主体の組織に対して提言を行い、事業活動のガイドフレームを提示するとともに、社会に対してJIAの公益寄与をアピールすることに役立つ施策を提案しています。

具体的活動として2014年度は、JIA各組織が日常行っている事業活動をJIAの他の部署で参照できる形に事業活動リストとして整理し配布しました。有効活用が図られることを期待しています。

2014年度からは、財務事業管理委員会と共同で、公益事業活動を支援するための事業活動助成の採択審査を含む運営全般を担当しています。JAに相応しい公益事業が活発に行われることにより、社会におけるJIAの役割と存在価値が市民の皆さんに広く理解されることを望みます。

#### 3) 業務改善委員会

改正建築士法については、建築関連三団体で議員立法に向けた要請活動を行い、2014年6月20日の国会可決以降には会員や会員外への周知活動を分担しています。

また、公共工事改正品確法(2014年6月4日施行)に記載された多様な入札契約方式導入という国の方針に注目しており、発表された土木分野中心の運用指針を調査研究しながら、具体策のガイドライン発表に備えています。とは言え、公共建築事業の発注方式につい

ては個別に、国交省官庁営繕部と建築関連三団体との意見交換の場において、白熱した議論を例年になく重ねています。

当委員会が所管するWG活動については、以下の通りです。なお、昨年度の事業報告では、マーケットや事務所経営マネジメントの調査研究WGを設置する予定でしたが、時期尚早として設置を先送りにしました。

#### <ワーキンググループ活動>

##### ①建賠WG

工事監理の業務ミスでその建物に物理的滅失もしくは損傷が発生し訴訟を受けた場合の応訴費用、訴訟の結果、法律上賠償しなければならない損害等を補填するオプション(2015年4月より追加)を創設しました。

##### ②約款WG

設計監理業務約款及び工事請負約款の多様化と改正建築士法等に対応した現行約款の改正、新たに四会連合「小規模向け設監約款」及び民間(旧四会)連合「リフォーム約款」と「小規模建築物・設計施工一括用約款」を制定しました。

##### ③IPD-WG

2014年3月の国土交通省BIMガイドラインは、あまり影響がないという意見が大半でした。その後、設計でのBIMで、どの程度までモデル化するかという問題(Level Of Detail)について情報収集し、JIA案を検討しており、近々発表予定です。

##### ④発注方式WG

設計・施工分離方式、各種デザインビルド方式、設計施工一括方式の比較検討を行いました。また、東京都のオリンピック施設あるいは各自治体のデザインビルド発注、国土交通省の多様な契約方式の検討について動向を調査、問題点を検討しました。

#### 4)財務・事業管理委員会

委員会を5回開催し、財務の健全化、事業管理手法の向上のために、以下の活動を行いました。

- ・支部・地域会に対し、「事業管理連絡票」の作成依頼、2014年度予算の執行状況の把握と事業の公益性確認と公益化への助言を行い、また、2015年度事業についても、事業の公益性確認と公益化への助言を行いました。
- ・支部・地域会の2014年度四半期決算報告と2015年度予算案の作成依頼と、本部・支部・地域会を含む合算表によるJIA全体の公益事業比率の2014年度決算における確認と2015年度予算での予測を行いました。
- ・支部への公益事業助成について、公益事業委員会と合同で、「事業活動助成要領」の作成、及び9月と12月の2回に分けて支部から出された事業活動助成申請の評価を行い、理事会へ報告しました。
- ・準会員の内、シニア会員と専門会員の管理に関する本部経費の考え方を整理、理事会へ上程し、支部ごとの機関誌の送付方法について選択をお願いしました。

- ・本部委員会及び各支部における、外部団体等からの受託事業の公益性の評価を行いました。
- ・新々会計による 2014 年度決算を確認し、2015 年度予算案作成のための前提確認と本部事業についての予算査定を行いました。

## 5)総務委員会

理事会からの付託事項への対応、諸規定類の運用状況の管理、事務局の業務執行状況の管理、緊急時対応を主要ミッションとしている。

2014 年度も旧規定類の見直しと新規程の策定を行い、「会費規定」「役員候補者選挙規程」「名誉会員の選考に関する規程」「委員会規程」「就業規則」の各改正案及び「フェロー会員選考基準」「寄付金等取扱規程」「定年後嘱託者再雇用規程」「パートタイマー就業規程」各案を検討し、理事会に答申しました。また、全国会議からの各会議毎の規約(案)についても検討を行い、意見を付して理事会に報告しました。フェロー会員の選考運営マニュアルをフェロシップ委員会と合同で作成し、理事会に報告しました。

## 6)広報委員会

「社会へ向けた発信と JIA 内部の情報伝達」を基幹として下記の事業などを行いました。同時にそれらを実現すべく、事業を推進する本部広報委員会、情報交換の本支部広報委員長会議を定期開催、また他委員会に広報担当者を設けて体制も強化しています。WG 以外の業務実績は下記の通りです。

- ・新たに JIAリーフレット作成(従来からのフォーマル版と市民向けの間レベル物)及びフォーマル版の内容見直しと、市民向けの更新。
- ・JIA ロゴの再整備
- ・JIA Video letter 制作:JIA 建築家大会 2014 岡山、及び会長メッセージ
- ・プレスリリース等、外部に向けた発信

### <ワーキンググループ活動>

#### ①JIA マガジン編集 WG

機関紙「JIA magazine」の誌面を刷新。

年間テーマを「ネクスト:建築家のこれから」として、建築家をとりまく環境の変化の中で私たちがどう変わっていくのかを模索しました。また、表紙には毎号建築家のスケッチを掲載。ご好評を頂いている。

#### ②HP-WG

トップページ、英語ページ、委員会ページ、他各支部の見直し改善を行いました。入会関連はサイト構築から始まり引き続き検討中です。基本政策諮問会議答申書、JIA 会員と登録建築家資格制度については意見箱を設置、また有事に備えて、本部以外に沖縄支部でも HP 管理できるようにしました。

#### ③メルマガ WG

2 タイプのメルマガを配信。月初めの「JIA 通信」は会員及び関係団体、官公庁、プレスな

どに向けて様々な情報を提供、月半ばの“JIAメルマガ”は会員専用とし、JIA 動向、理事会ニュースなど重要な情報をメッセージも含めて提供しています。

## 7)教育・表彰委員会

当委員会は、教育プログラムおよび表彰プログラムの双方に関する活動を担当しています。委員会の中に、各スクール・セミナー活動を担当する「教育分科会」、各賞については「表彰分科会」を設置し、下記の活動を実施しました。また、今後の表彰制度のあり方等についての研究にも着手しています。

### <教育分科会>

#### ① JIAオープンデスク

登録事務所数 251、内受け入れ事務所 64、応募学生数 96 名、参加学生数 92 名

#### ② 大学院インターンシップ

昨年度の議論を踏まえたうえで、受け入れ事務所側の理解を促進するよう制度の解説を考慮し、継続実施しました。

#### ② リフレッシュセミナー

2015年3月15日から2泊3日で熱海のリフレッシュセンターでJIAの各支部からの参加者を集めて、セミナーを実施しました。またリフレッシュセミナー参加者がコアになって JIA 大会ごとに発表を行なう「リフレッシュセミナーREUNION」を岡山大会で実施しました。

### <表彰分科会>

#### ① JIA 日本建築大賞、JIA 優秀建築賞(2014年度より名称変更)、JIA 新人賞、JIA25年賞、JIA 環境建築賞の各賞について、公益社団法人への移行に伴い、各募集要項を見直しして実施しました。

各賞の表彰点数

JIA 日本建築大賞(1点) JIA 優秀建築賞(4点) JIA 新人賞(2点) JIA25年賞(13点)  
環境建築賞住宅建築部門(最優秀賞1点・優秀賞1点・入賞2点) 一般建築部門(最優秀賞該当なし・優秀賞3点・入賞2点、奨励賞2点)

#### ② 建築家のあかりコンペ WG

8回目を迎えた「建築家のあかりコンペ 2014」(主催:JIA/大光電機)は「身体にちかいあかり」をテーマに実施し、最優秀賞1点、優秀賞1点、DAIKO賞1点、特別審査員賞1点、佳作3点の7点を選出しました。

## 8)フェロシップ委員会

フェロシップ委員会は会員の入退会審査に加えフェロ会員の審査を行い、正会員の増強及び準会員の新規入会促進を重点的に取り組んできました。正会員が昨年に続き176名減少していますが、高齢者の退会及びシニア会員への移行が続く中、比較的若い会員の入会が進み世代交代が進んでいます。

中長期的にも会員増強を進めるため、JIA の魅力向上に向けて検討・提案をおこなって

います。また会員の交流を進めるため、東北支部大会でフレッシュマンセミナーを、全国大会において全国地域会長会議、フレッシュマンセミナーを開催しました。

## 9) 国際交流委員会

本年度はUIA2014ダーバン大会(8月・南アフリカ)での展示・ワークショップや、タイとの交流事業を初めとする国外の活動と、JIA 岡山大会(10月)に協定締結国(米国、タイ、韓国)との国際会議や、支部助成各支部の国内の活動等が、大変活発な状況が終始した一年でした。

中でもUIAダーバン大会における災害復興に焦点をあてた活動は、当委員会が主体となって準備と現地での運営にあたりました。そして、伊東豊雄氏や坂茂氏の協力を得て、大きな関心を集め、成功裏に終えることができました。東北支部による持続的な復興支援の取り組みは国際的な視点からも重要と考えられます。

今後ともこのようにUIAやARCASIAなどの地球・地域レベルでの活動の意味はますます大きくなる一方で、JIAとしてどのように具体的な貢献ができるかは、財政基盤や人材確保の面からも多くの課題が山積していますが、とりわけ若手、中堅メンバーをどのように巻き込み、育成できるかはJIAに限らず日本が直面する大きな問題と考えます。委員会として如何に効率よく活動できるか、そしてその成果や知見をどのようにJIA全体が共有することができるか、を検討すべきと考えています。

## 2. 2014年度で活動停止の委員会

### 1) 災害対策委員会

4月のチリ沖大地震、5月の伊豆大島近海地震、7月の北海道石狩地方地震に続き、11月22日には長野県北部地震で大規模被災が発生しました。これに対し長野地域会が小川村、白馬村の被災区分判定調査を行いました。また、豪雨被害が九州四国で続き、8月に広島市で大規模土砂災害が発生、広島地域会が復旧活動に参加しました。

7月に「復興まちづくり支援機構」と東京都共催のシンポジウムに参加、JIA岡山大会では地域会とシンポジウムを開き、「国連防災会議パブリックフォーラム」にも建築関連五団体と共に参加しました。

## 3. 必要時に立ち上げる委員会

### 1) 選挙管理委員会

2014年12月18日開催の第1回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日程等を決定しました。2015年2月27日の立候補締切日まで理事・監事双方とも、立候補者数と定員が同数であったため、投票は実施しませんでした。前述の「VI 本部役員候補者選挙」で記述した結果を2015年3月15日発行の「JIA MAGAZINE 311号」に掲載して全会員に告知しました。

### 2) 名誉会員選考委員会

2014年度通常総会に推挙する名誉会員について、海外推薦2名、会長推薦1名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

#### 4. 特別委員会

##### 1) 建築基本法特別委員会

2014年6月に建築基本法制定に向けての準備のため、特別委員会として設置されました。

旧法制度委員会での研究成果の整理、他の同趣旨の団体等の活動成果の収集に続いて、時代の変化を織り込み、再度JIAとしての論点整理を行いました。

当面設計二団体(日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会)に提案して検討体制を構築することを目指しています。

#### 5. 全国会議

##### 1) JIA環境会議

岡山大会で第一回環境会議が開催され、各支部から推薦された委員が一堂に会し、新たな活動がスタートしました。各支部に環境に関する委員会の設置を促し、その連携を図りJIA全体として環境に対し優れた建築の知識と技術を構築し、共有する方針です。

すでに委員会が設立された関東甲信越支部をはじめとして、各支部で委員を中心に動き出しました。また従前の環境行動ラボ委員会の活動を継続する形で、エコハウスフォローアップ、環境データ評価、伝統的工法の住まい、環境建築ガイドブック、国際交流、再生エネルギーの6つの具体的活動も動き出しています。

活動内容としては、環境データシート、伝統的工法木造住宅の技術文化継承のための調査研究を行い、その関連シンポジウムおよびセミナーを開催しました。環境建築ガイドブックの続刊を上梓し(2015年6月出版予定)、環境技術と木材利用推進をテーマにセミナーを2回開催しました。また、支部と連携して本部表彰委員会の環境建築賞に協力しました。環境会議ホームページとエコハウスポータルサイトでこれらの活動を公開し、普及に努めています。

##### 2) JIA建築相談会議

2014年度は全国会議移行に伴い発足準備会議を7月31日に開催しました。全国大会のあった9月26日に「第1回JIA建築相談会議」を行い、全国会議の位置付の確認と新しい規約の作成を進めることになりました。各支部毎の規約案の作成を呼びかけています。

##### 3) JIA保存再生会議

岡山大会にて(仮称)文化財保存再生全国会議(キックオフ会議)を開催しました。内容としては、文化財ドクター派遣事業の活動報告の他、各支部から文化財建造物の発掘・評価・修復・活用・技術者育成・技術の研鑽交流などの報告、意見交換を行いました。この会議で災害時の

課題だけではない日常的な活動を「連絡」と「集約」という観点で明確化を図ることで一致し、昨年 10 月に JIA 保存再生会議が全国会議として理事会に承認されました。現在、JIA 修復塾の体制整備を検討するとともに、講座開講に向けて準備を進めています。

#### 4) JIA まちづくり会議

当全国会議は、「日本版 CABE」を含めた良質な建築・美しいまちづくりの制度や仕組みづくりのために、全国支部における共有と各地域のまちづくり活動の情報交換が目的です。当会議は、2014 年の 12 月と翌年 2 月の理事会にて委員が承認され、具体的な活動は 2015 年度からとなります。6月に Web 会議、9月の建築家大会 2015 金沢では全委員が集合しての会議、12月と 2016 年3月に Web 会議と計4回を予定しています。

#### 5) JIA 災害対策会議

2月に全国会議として設置が承認され、議長・委員を 2015 年度に選任承認し、活動することとしています。

#### 6) その他の活動等

##### 1) 全国卒業設計コンクール実行委員会

2014 年 6 月 28 日からの 2 日間、東京・新宿アクアプラザにて第 11 回全国卒業設計コンクールを開催しました。全国から約 600 作品から選抜された優秀作品 53 点を展示、審査し金賞 1 作品、銀賞 2 作品、審査委員特別賞 5 作品を決定し、岡山大会でも賞作品のパネル展示を開催しました。

##### 2) 建築アーカイヴス会議

金沢工業大学と協力して、貴重な設計図書等の設計文化財のアーカイヴス化の事業をさらに進めました。設計文化財の活用、利用の具体的な活動を担当する NPO 法人建築文化継承機構が 8 月に設立承認され、JIA・金沢工業大学・NPO 法人建築文化継承機構の三者で覚書を交わし、建築アーカイヴス会議の活動は、NPO 法人建築文化継承機構に移行しました。

## Ⅷ 支部長報告

### 1. 北海道支部(上遠野克支部長)

北海道支部では今年の 1 月、「JIA 北海道建築展」を開催しました。公益性のある活動を通じて、街づくり・環境・住まいのこれからのあり方を広く市民、道民と共有する場を作る目的です。建築家の仕事を理解して頂くと共にこれからの建築を取りまく様々な問題を考えていくきっかけになればと思っています。今後も市民・道民に向けた活動を北海道らしく展開します。2014 年度の支部の主な事業は以下の通りです。

[2014 年度の主な活動(日程、開催場所)]

- 1) 第 19 回 AJJ-JIA ジョイントセミナー(7 月 18 日、旧三菱鉱業寮(旧永山邸増築部))
- 2) 北海道建築展(1 月 22 日～25 日、札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)キタサン HIROBA)
- 3) JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール(3 月 20 日、内田洋行 U-cala)

## 2. 東北支部(辺見美津男支部長)

2014年11月に行われた福島での東北支部大会において、「復興」は世代を超えて続く遠い道のりであることを、「帰還困難区域」の手付かずの現状が空しく伝えていました。このような状況に無力であることをかみしめながらも、地方の「くらし」「住まい」「まち」にかかわる「建築家のあり方」を見つめ直し、次の世代につなぐ取り組みを展開しなければならないと考えています。

東北6県の地域会活動のネットワーク基地として、支部事業と各地域会の具体的な復興への取り組みについての支援事業を展開してより公益性を高めたいと考えています。

東北支部では、「くらし」「住まい」に関する職能の原点を探る「住宅委員会」の創設(2015年5月正式承認)のほか、地域会ごとの取り組みによる次世代の会員増強を図っています。2014年度の支部の主な事業は以下の通りです。

[2014年度の主な活動(日程、開催場所)]

- 1) JIA全国学生卒業設計コンクール 2014 東北支部審査会  
(4月12日、仙台市市民活動サポートセンター)
- 2) JIA東北 建築フォーラム 2014(5月23日、せんだいメディアテーク)
- 3) 第18回JIA東北建築学生賞公開審査(10月17日、せんだいメディアテーク)
- 4) 第8回JIA東北住宅大賞 2014 公開審査(10月25日、秋田市にぎわい交流館)
- 5) JIA東北支部建築家大会 2014 福島(11月7日～8日、福島市等)

## 3. 関東甲信越支部(上浪寛支部長)

2014年度を振り返ると、建築関連三団体が共同提案し議員立法で建築士法が改正されたこと、そして2020年東京オリパラ大会の一部施設を設計施工一括で発注すると表明した東京都に対して、関東甲信越支部はじめ東京三会が共同して意見を申し入れ、度重なる意見交換の末、地方自治体への波及に歯止めをかける内容の回答書を受け取り公開したこと等、建築界が連携して活動し成果をあげた意義ある年であったと思います。

公益法人移行から2年目になり、本部同様支部でも規定類及び組織の整理が進みつつあると感じます。ただし正会員の過半が60歳以上となった現在、正会員のみならず準会員、協力会員の新たな参加を促し、特に若手会員にとって魅力や期待を持てるJIA活動を展開しながら新陳代謝させることが、JIAの存続に不可欠だと考えています。2014年度の支部の主な事業は以下の通りです。

[2014年度の主な活動(日程、開催場所)]

- 1) 保存問題長野大会(5月24日・25日、諏訪・岡谷)
- 2) 第23回東京都学生卒業設計コンクール(5月31日・6月1日、工学院大学)
- 3) アーキテツ・ガーデン 2014(6月～7月、(関東甲信越地区各地))
- 4) JIA・JCCA協働シンポジウム第7回(1月28日、AGCstudio 京橋)
- 5) 大学院修士設計展(3月13日～15日、芝浦工業大学)
- 6) 建築士法に関するシンポジウム(3月15日、建築家会館)

7) 交流大会(3月24日、建築家会館)

#### 4. 東海支部(石田壽支部長)

東海支部と他支部との連携により運営した「JIA ゴールデンキューブ賞」にて選出された「建築と子供たちネットワーク仙台」の活動が、UIA Architecture & Children Golden Cubes Awards で最優秀賞を獲得し、11月にその発表も兼ね「こどもの建築活動発表交流会」が開催されました。

また、「第21回東海学生卒業設計コンクール」、「第31回JIA東海支部設計競技」が実施され、支部の活動の歴史の重みを感じさせるものでした。「JIA東海住宅建築賞」は第2回となり、初回の応募作品数を上回る54作品の応募がありました。公益事業として若手建築家にJIAの活動を理解してもらえる絶好の機会でもあり、会員増強の一環としても機能しています。

支部機関誌「ARCHITECT」の編集・発刊は、支部・地域会と会員を繋ぐ大切な役割を果たしています。支部の大きな財産であり、今後も毎月発刊を維持して行きます。これからも「地域に根ざし社会に貢献できる建築家の団体」を目指して支部運営を進めて行きたいと思えます。

#### 5. 北陸支部(近江美郎支部長)

北陸支部では2014年度下記の事業を実施しました。

##### 1) 卒業設計コンクール北陸支部審査会

北陸3県から8名の応募があり、審査委員長浅石優氏、他会員審査員3名による公開審査会を行いました(富山大学2名、金沢工業大学2名、福井大学2名、福井工業大学2名)。

##### 2) 北陸支部大会記念講演、セミナー

大会記念講演においては運営プロデューサーの山下裕子氏、建築家の浅石優氏を講師に招き、「富山グランドプラザ」に関する講演会を開催しました。その他JIA筒井信也専務理事の本部報告会、各地域会主催セミナーも開催しました。

##### 3) 「JIA建築家大会2014岡山」での金沢大会広報活動

岡山での全国大会に支部会員総勢45名で参加し、2015年全国大会(金沢開催予定)の広報活動を行いました。

#### 6. 近畿支部(松本敏夫支部長)

近畿支部では、従来からの市民向けセミナー始め、多くの継続的事業を行いました。

特に2014年度は地域会を活動主体と捉え、地域活動活性化に向けての取り組みを重点項目として、近畿支部版公益事業活動助成を新設し、活動の活発化を促しました。

災害対策支援はもとより予防的観点に立ったまちづくりの必要性から行政との災害協定の締結や、良好なまちづくりを目指して、景観整備機構の指定を受けるなど各地域で活動が推進されています。また在阪建築4団体による連携でのシンポジウム企画なども進んでいます。

JIA西日本災害対策会議を設立し、他支部連携で災害対策支援ネットワークを全国各支部賛同のもとで構築しました。

若手建築家の国際交流は今後益々重要性が増すと考えられます。韓国建築家協会釜山建築家会と中国天津市建築学会を加えた国際交流事業に於ける「日韓中・若手建築家によるワークショップ」を開催しました。また釜山では日韓共催の「釜山建築国際大展(アイデアコンペ)」を実施しました。

建築と子どもたちをテーマにした活動も近未来を視野に各地域会で取り組んでおります。その他、今後地域に根差した公益事業をより一層推進するため 2015 年度には大阪地域会が設立いたします。

## 7. 中国支部(龜谷清支部長)

中国支部では、今年度のほとんどの活動は「JIA 建築家大会 2014 岡山」の成功に向けて行うことになりました。支部の 2014 年度の主な事業は以下の通りです。

- 1)「JIA 建築家大会 2014 岡山」の開催
- 2)「第 6 回 JIA 中国建築大賞 2014」の実施(「JIA 建築家大会 2014 岡山」のなかで表彰式開催)
- 3)地域会活動として「JIA 建築家大会 2014 岡山」でのセミナーの開催
  - ・山口地域会 「実務者のための伝統的構法木造建築物の設計法」
  - ・鳥取・島根地域会 「里山資本主義」
- 4)「JIA 建築家大会 2014 岡山」でのオギュスタン・ベルグ氏の基調講演の開催
  - ・市民に開かれた活動として多数の市民の参加を得ることができました。
- 5)「JIA 建築家大会 2014 岡山」において支部会員作品展示を開催
- 6)8 月 20 日に発生した広島市北部の土砂災害における支援活動
- 7)「環境×建築連続セミナー」四国支部との共催
- 8)広島県「魅力ある建築物創造事業」への協力

## 8. 四国支部(野村正人支部長)

四国支部では、第 2 回支部大会を 4 月 19 日に香川県高松市シンボルタワーで開催しました。支部総会と支部協力会員の会発足式、式典、基調講演のあと 4 つの分科会のセミナーを行い、夜にレセプションを開催。参加者は約 100 人に盛り盛会な支部大会となりました。

二つの大きな事業を行いました。その一つは中国支部と共同開催の「建築×環境連続セミナー」です。この事業は 2 ヶ年度の継続で、今年度は実践編とし、年間 6 回の開催で、受講者は JIA 会員以外からも募集しました。40 名の参加があり、大変盛況なセミナーとなりました。もう一つは「建築巡礼四国 88 ヶ所ガイドブック vol.2」の見学会事業。第 1 回目として香川エリアで行い、豊島、犬島一日ツアーを行いました。一般募集を行い 40 名と会員 15 名の参加が有りました。

そのほか 12 月には、県主催による若い設計者を対象とした設計コンペ「(U-40 設計競技) ナングスクンペ」の公開審査に協力しました。これからも、若手建築家の登竜門として定着するように支部としても引き続き支援していきます。2 月には、学生の建築展と、増田信吾博氏を審査委員長に迎えた卒業設計作品選奨の公開審査を開催しました。同氏には講演をしていただ

き、多くの市民に参加をいただきました。

1月に2017建築家大会のため準備委員会を立ち上げ、次年度に向け準備を進めています。

## 9. 九州支部(角銅剛太支部長)

2014年度は支部の事業テーマとして「公益事業」「国際交流」「会員交流」を掲げました。

隔年で開催している支部大会を、長崎・佐賀の2県合同で開催しました。隣接する2地域会での開催は支部初だったが、エクスカージョンなど多彩なプログラムを組む事ができ、新しい支部大会のスタイルとなりました。

若い建築家候補者を対象とした「建築塾」を3年ぶりに復活し、11名の参加者が2泊3日の研修を行いました。また、毎年開催している学生を対象とした「デザインレビュー」は予備審査を通過した100近くの作品が並び、今年度も盛況でした。

各地域会でも継続している事業が多く、20年以上続いている熊本の「ライティングパーティー」には市民の参加も多く、北福岡、福岡、鹿児島の各地域会は韓国各地域の建築士会との交流を続けています。市民に開かれた活動として会員の交流を目的に、福岡市で主に行われている支部役員会を他の地域会でも行いました。各地域の建築を訪ねる「地域交流会」を大分市で開催しました。このような事業を通し、支部会員相互の顔が見える事を目標に活動を行いました。

## 10. 沖縄支部(島田潤支部長)

昨年を振り返ると、沖縄支部の東南アジアへのこれからの立ち位置がはっきりと見えてきた年だったと思います。グローバル化推進事業の活動や、海外視察を通して、より鮮明に将来への目標を共有化することができたように思います。

主だった事業として、2013年度に承認を受けた県のグローバル化推進事業は、継続的に承認を受け、11月に現地ハノイでの最初のプレゼンテーションを実現することができました。12月には、タイ王立建築家協会との交流に始まった建築視察が昨年は3回目を迎え、シンガポール視察旅行を行い、現地有力事務所への表敬訪問、沖縄への誘致が期待されるMICE施設の見学、そしてシンガポール建築家協会のメンバーとも交歓できたことは大きな収穫でした。

また、県主催による「ケンソーコンペ(U-40)」の公開審査が行われ、若手建築家の登竜門として続けられるよう支部としてサポートしたいと思います。2月には、沖縄県建築士会、沖縄県建築士事務所協会、日本建築家協会沖縄支部の三会と、タイムス住宅新聞社の共催で「沖縄建築賞」を創設しました。3月には戦後70周年、海洋博から40周年の節目として「Okinawan Identity of Architecture」と題して 県立博物館美術館で恒例の建築展を開催しました。同時に卒業設計作品選奨の公開審査と近藤哲雄氏による講演会を行い、多くの方々が参加しました。

沖縄の建築家が、豊かで美しく魅力的な沖縄の建築とまちづくりの調停者として地域に貢献し、序々に周辺諸国へと交流の輪を広げ、将来的には東南アジアを舞台とした建築活動の具現化に期待致します。